



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2625号 2015.9.8 発行

リオパラリンピックまで1年で記念式典



NHK ニュース 2015年9月8日

南米大陸で初めてとなる障害者スポーツの祭典、リオデジャネイロパラリンピックの開幕まで1年となった7日、リオデジャネイロで記念のセレモニーが行われました。

セレモニーはパラリンピックを市民にアピールしようと休日をおとす人たちでにぎわう公園で行われ、IPC=国際パラリンピック委員会のクレイバン会長や大会組織委員会のヌズマン会長などが出席しました。

大型スクリーンに国際大会で活躍する選手の様子が映し出されたあと、IPCのクレイバン会長が「今大会は178の国と地域から4350人の選手が参加する史上最大の大会となる。大会での選手たちの活躍は、障害のある人の見方を変えるでしょう」と述べ、1年後の大会の成功に自信を見せました。

ブラジルでは大会に向け、パラリンピックの知名度をいかに高めることができるかが課題で、会場ではパラリンピックを身近に感じてもらうと子どもたちが競技を体験できるコーナーが設けられ、コーチの指導を受けながら目隠しをするブラインドサッカーや車いすテニスなどを楽しんでいました。

リオデジャネイロパラリンピックは来年9月7日に開幕し、12日間の日程で前回のロンドン大会より2つ多い22の競技が行われます。

義足の彼女 COOL...越智さん写真展

読売新聞 2015年09月08日

◇9、10日 うめきた 「障害者への先入観 覆して」

病気やけがのため義足をつけ、趣味やスポーツを楽しむ女性たちを撮影した写真展「切断ヴィーナス」が9、10両日、大阪市北区のグランフロント大阪で開かれる。出品するのは東京五輪・パラリンピックの招致スピーチで写真が紹介された大阪出身の写真家・越智貴雄さん(36)で、「障害のイメージを覆す彼女らの魅力的な姿を見てもらいたい」と話す。(斎藤七月)

越智さんは、大阪芸術大在学中の2000年、シドニー大会で初めてパラリンピックを撮影。義足でトラックを駆ける選手らを見て、「障害者に対する『かわいそう』という考え方が、『かっこいい』に180度変わった」と話す。

その後、アテネ、北京パラリンピックなど多くの障害者スポーツを撮影。インターネットに情報サイトを作るなど、障害者スポーツの魅力を発信してきた。13年の東京五輪・パラリンピック招致で、プレゼンターを務めたパラリンピック選手の佐藤真海さんのスピーチの最中に映し出された佐藤さんの写真も撮影した。

約10年前に取材で知り合った義肢装具士の臼井二美男さん(60)に教わったのは、「義

足は隠すものではない」ということ。臼井さんは、義足に花柄のデザインを取り入れたり、ヒールが履ける仕様にしたりと、女性のおしゃれ心に応える仕事を続けていた。

臼井さんの義足をファッションの一部として使う女性もおり、越智さんは「この姿を見れば障害者への先入観は崩れる」と、臼井さんを通じて協力を得た10～50歳代の女性11人を撮影。昨年5月、写真集「切断ヴィーナス」を出版した。

写真展は昨年5月と12月に東京で開いているが、関西では初めて。今回は写真集に収めた14枚と新作計約30枚を出展。陸上やサーフィンに打ち込む女性らの写真が並ぶ。

メタリック仕様の義足で大型バイク・ハーレーダビッドソンにまたがって撮影に協力した村上清加さん(32)(東京)は、100メートル走と走り幅跳びでパラリンピックを目指しているといい、「かっこいい義足が私の世界を変えてくれた。見た人が前向きな気持ちを感じてくれたらうれしい」と語る。

義足をいとおしそうに抱きしめる写真が目を引き小林久枝さん(52)(横浜市)は、先天性の病気で5年前に右足を切断したが、義足になり、これまで諦めてきた趣味のサーフィンを再開し、陸上も始めた。「やってみたいことは何でも挑戦してみようと思えるようになったのは義足のおかげ。今の自分のほうが好き」と笑った。

越智さんは「これからも力強く、自分らしく生きている女性たちを追いかけたい」と話している。

12日には、同じ会場で義足の女性たちによるファッションショーも行われる。いずれも入場無料。問い合わせは、越智貴雄写真事務所(0422・52・1152)へ。

精神障害者の就労支援 四日市にセンター

読売新聞 2015年09月08日

ユニバーサル就労センターのパンフレットを手にする金代表理事



精神障害を抱える人を主な対象として就労を支援する障害福祉サービス事業所「ユニバーサル就労センター」が、四日市市諏訪栄町のグリーンモール商店街の一角にオープンした。運営するのは、今年5月に設立されたNPO法人ユニバーサル就労センター。

姉妹団体のNPO法人市民社会研究所(四日市市)は、15～39歳を対象に就労相談を行う「北勢地域若者サポートステーション(ほくサポ)」を2011年から運営しているが、同研究所によると、人付き合いが苦手、うつ傾向など働きたくても働きづらい事情を抱える人には、相談業務だけでは限界があるという。

このため、同研究所は昨年5月、企業などでの一般就労が難しい人でも働ける「伊勢おやき本舗」を同商店街の一角にオープン。県内各地の食材を生かした「ご当地おやき」を販売している。

就労センターは、障害者の就労支援をさらに推し進めるのが狙いで、今年1日、おやき本舗や「ほくサポ」の入る事務所ビルの3階に開設した。一般就労を目指してトレーニングする「共育コース」と、最低賃金を保障しながら、おやき本舗などと連携して就労の場を提供する「共働コース」の2種類のサービスを提供する。

共育コースは3か月単位で、最長2年までの利用が可能。社会人としてのマナーやコミュニケーション能力の向上、パソコン作業の習熟などを目指す。両コースとも定員は10人で、費用は無料。

代表理事の金憲裕さんは「精神障害を抱えていても働く能力が高い人はたくさんいるのに、社会でチャレンジできる場はとても少ない。一人でも多くの人を一般就労へとつなげ、障害者が普通に働くモデルケースを作っていきたい」と話している。問い合わせは同センター(059・355・2205)。

センターの設立を記念し、13日午後1時半から四日市市萱生町の四日市大学で講演会

が開かれる。生活困窮者自立支援全国ネットワーク代表を務める中央大学の宮本太郎教授が「社会的孤立と困窮を生まない地域づくり」と題して話す。無料。申し込み不要。問い合わせは市民社会研究所（059・363・3539）。

Q 高齢者・障害者の権利どう守る

読売新聞 2015年9月8日

坂本 知佳 県立高校2年。 共働きの両親と暮らす。数学が得意。
成年後見人が財産管理



Q この間、九州のおばあちゃんの家にも物干しざおのセールスが来て、50万円もするセットを売りつけようとしたんだって。「そんなお金があったら、洗濯なんてせずクリーニングに出します」と、追い返したらしいけどね。

A 知佳ちゃんのおばあさんはしっかりしてるね。でも、高齢者の中には、認知症などで理解力や判断能力が低下している人もいて、悪質販売の被害が後を絶たないんだ。

Q それは心配ね。お年寄りを守る方法はないの？

A 認知症や知的障害、精神障害があって、自分で判断するのが難しい人を支えるために、成年後見という制度があるよ。

Q どんな仕組み？

A 「成年後見人」を選んで、本人に代わって財産を管理するんだ。不当に高い商品を買わされたら、後見人が後で売買契約を取り消すことができる。本人の判断能力が多少、残っていれば、後見人より権限が狭い「補助人」や「保佐人」が選ばれる場合もある。

Q 後見人って、どういう人がなるの？

A すでに判断能力が失われている人の場合、「法定後見」といって、主に親族の申し出を受けて家庭裁判所が後見人を決める。弁護士や司法書士、社会福祉士など法律や福祉の専門家か、子どもなど親族になる場合が多い。複数の後見人を選ぶこともできるので、専門家と親族が協力して後見人を務めることもある。社会福祉法人などの団体も後見人になれるんだよ。

Q 信頼できる人を選んでくれるといいんだけど。

A 本人にまだ判断能力があるうちなら、将来、認知症になった場合に備えて、自分で後見人の候補者を選んでおくこともできるよ。「任意後見」っていうんだ。成人なら、親族や専門家はもちろん、友人や近所の人でも大丈夫。

Q じゃあ、私が大人になったら、おばあちゃんの後見人候補者になることもできるの

成年後見制度利用の流れ



任意後見

対象 まだ判断能力がある人

本人が後見人候補者を選ぶ

親族や知人 弁護士などの専門家

本人と候補者が公証役場で契約書を作成

公証役場

時がたち認知症などで本人の判断能力が低下

候補者などが家庭裁判所に後見開始の申し立て

家庭裁判所

家庭裁判所が後見人の仕事をチェックする監督人を選ぶ

弁護士などの専門家

後見人が仕事を開始

後見人が仕事を開始

法定後見

対象 すでに判断能力が低下している人

親族などが家庭裁判所に後見開始の申し立て

家庭裁判所

家庭裁判所が後見人を選ぶ

親族 弁護士などの専門家

後見人が仕事を開始

後見人が仕事を開始

ね。「管理してもらおう財産なんてないよ」って言われそうだけど。

A 財産がなくても、後見人は役に立つよ。本人が日常生活をきちんと送れるようにするのも後見人の仕事なんだ。例えば、入院の手続きをしたり、介護サービスを利用する契約を事業所と結んだりね。

Q 頼りになりそうね。ただ、身寄りのないお年寄りや弁護士に頼むお金が払えない人もいるでしょ？

A 研修を受けた一般市民がボランティアで後見人を務める仕組みもあるよ。現状では専門家の後見人になる人が不足しているの、市民後見人の養成が期待されているんだ。

Q 裁判所から選ばれて財産の管理や生活支援をするなんて、責任重大ね。

A 判断能力のない人を守るために大きな権限が与えられているからね。ただ、その分、後見人による不正も起きやすい。親族後見人が財産を使い込んだり、弁護士など専門家の後見人による横領事件が起きたりしている。最高裁判所のまとめでは、昨年末までの4年余りで、後見人らによる不正の被害が少なくとも196億円に上ったんだ。



Q 弱い人を守る役割なのに、その立場を利用して悪事を働くなんてひどい！

A 不正防止の強化や制度の利用促進に向けて、法律を作る動きがあるよ。高齢化で10年後には認知症の人が700万人に増えると推計されている。より安全で使いやすい制度に改めながら、利用を広げていくことが大切だね。(飯田祐子)

施設から行方不明 知的障害少年の写真公開 警視庁 産経新聞 2015年9月7日 警視庁が公開した福祉施設から行方不明となっている松沢和真さん(同庁提供、7月1日撮影)



警視庁は7日、東京都八王子市美山町の福祉施設「多摩藤倉学園」から行方が分からなくなっている中学3年、松沢和真さん(15)の顔写真を公開した。同庁によると、松沢さんは重度の知的障害を持っており、名前や住所を話すことができない。

同庁によると、4日午後4時45分ごろ、同学園の生活棟の自動扉から1人で外へ出る様子が防犯カメラに映っていた。目撃情報などから、その後はバスに乗って京王線高尾駅(同市)から電車に切符を買わずに乗車。午後5時35分ごろ、高尾山口駅(同)の改札を無理に通過する様子がカメラに映っていたという。

松沢さんは身長172センチで中肉、短髪。所持品はなく、紫色の長袖シャツに紺色長ズボン、紫色サンダルを身につけていた。シャツの首の裏のタグに「マツザワ」と書いてあるという。情報提供は八王子署((電)042・645・0110)。

長野県産100%でペット食品 「規格外」野菜・果物を活用

産経新聞 2015年9月8日

ペットフード製造販売の「信州わんにゃん食工房」(小諸市、重岡克哉代表)は、県内産の高原野菜や果物を特殊な製法で加工したペット用補助食品「ペットのドライサラダ」と「ペットのふりかけ」の製品化に成功した。規格外などで流通ルートにのらない野菜や果物を活用し、障害者作業所で製造。原材料を100%生かした自然食品として、軽井沢町など東信地方のペット関連ショップや土産店などで販売している。

販売しているのは、野菜などをカットしたドライサラダ3種類(リンゴ、キャベツ、レタス)と、粉末状にしたふりかけ2種類(キャベツ、レタス)。重岡代表の知人の農家がひ

よう害で傷ついた野菜の処理に悩んでいるのを知り、「もったいない」をコンセプトに活用方法を思いついたことが、製品化のきっかけとなった。

「ペットフード用の補助食品には動物性たんぱくを原料にしたものが多いが、野菜を使ったものはほとんどなく、製品化のチャンスがあると思った」と重岡代表。「食物繊維が豊富で、ペットフードの一部を代替すればダイエットにも効果がある」と話す。

製造は、上田市の社会福祉法人かりがね福祉会が運営する「OIDEYO（オイデオ）ハウス」に委託。同作業所に通う知的障害者らが、減圧低温乾燥施設を使い、色合いや風味、味わいを損なわないようにして、野菜や果物を加工する作業にあっている。同福祉会の志野和美食品加工マネジャーは「作業所で働く人たちの働きがい、工賃アップにもつながる取り組みだ」と評価する。

生産ラインに限られることから、1日50パック程度の生産、販売が目標。県地域資源製品開発支援センターの支援を受けて、パッケージなどをデザイン。イヌやネコだけでなく、都会で人気上昇中のハムスターやウサギなど小動物向けにも適しており、販路拡大を目指している。製品はそれぞれ15～40グラム入りで、410～480円のワンコインで買えるよう価格設定した。問い合わせは同工房（電）0267・31・6322。

備前焼で地域ジオラマ

読売新聞 2015年09月08日

◇新見の障害者施設 8日から公開

新見市哲多町新砥地区の就労支援施設を利用する障害者が、備前焼で地域の風景を再現したジオラマを製作し、8日から同市の文化交流館「まなび広場にいみ」で展示する。幅1.6メートル、奥行き45センチに建物が並ぶほか、シンボルの荒戸山や千屋牛、「金ボタル」として親しまれているヒメボタルといった地元の名物が配置され、一目で地区の特徴がわかるようになっている。（根本博行）

企業などへの就労が困難な人が働く就労継続支援B型事業所「100万回のサアーたいへん作業所」（新見市哲多町田淵）を利用する22～65歳の18人が今年3月から、備前焼作家・福田都模子さん（高梁市有漢町）の指導で半年かけて完成させた。

ジオラマは五つのパーツで構成され、土台部分は起伏をつけて荒戸山の裾野を表現。民家や学校の校舎、農協の建物、特産のピオーネを栽培するビニールハウスなどは、1個数センチと小さいながらも屋根や窓などを細かく仕上げている。

昭和40年代の懐かしい風景をモチーフに、木製の電柱や円筒形の郵便ポストなどを配置。そのほか、シイタケのほだ木や白菜、キュウリ、ニワトリ、採石用の重機、滑り台など、人々の暮らしぶりを伝える細かいパーツも並べている。

利用者は2年前から、作業所で福田さんから陶芸を学んでいる。運営するNPO法人の川上盛男理事長（64）が昨年11月、福田さんの作品展を訪れた際、ヨーロッパの街並みを描いたジオラマを見て触発され、発案したという。

川上理事長は「障害者が頑張った作品を見てほしい」と来場を呼びかけ、利用者の中谷幹さん（51）は「みんなで力を合わせた作品。大勢の人に見てもらえるとうれしい」と話す。

展示は13日までで、会場では、利用者が備前焼で作ったランプシェードや干支の置物など約200点も紹介。10月下旬～11月下旬には、高梁市のホテルや備前市のギャラリー、奈義町の山の駅などでも公開を予定している。

問い合わせは同事業所（0867・88・8277）。

中村選手 銅メダルを報告

読売新聞 2015年09月08日

◆スペシャルオリンピックス陸上で

米・ロサンゼルスで開かれた知的障害者のスポーツの祭典「スペシャルオリンピックス

夏季世界大会」に初出場し、陸上競技の100メートルと200メートルの2種目で銅メダルに輝いた津幡町の中村有里選手（24）が7日、町役場を訪れ、矢田富郎町長に報告した。中村選手は、金沢大学附属特別支援学校に通っていた中学生の頃から競技を始めた。現在は、町内の就労支援事業所でウエス（機械などを拭く布）をつくる仕事をしながら、金沢市の陸上クラブ「春風クラブ」に所属し、週2回の練習に汗を流している。

7月25日～8月2日に開かれた大会では100メートルで15秒91、200メートルで32秒95を記録し、見事に銅メダルを獲得した。中村選手は二つのメダルを手に母・明美さん（54）らと役場を訪問し、「うれしさもあれば悔しさもあった」と大会を振り返った。

矢田町長は、「銅メダルでも素晴らしい。悔しさをバネに練習し、次は金か銀を取ってください」と激励していた。

2選手副知事に報告…スペシャルオリンピックス 読売新聞 2015年09月08日 山形

米・ロサンゼルスで7月25日～8月2日に開かれた知的障害者のスポーツの祭典「スペシャルオリンピックス夏季世界大会」に県内から出場した選手2人が、県庁に細谷知行副知事を訪問した。

陸上男子短距離の佐藤雅之さん（35）（米沢市）と競泳の佐藤雄成さん（21）（酒田市）で8月25日に県庁を訪れた。佐藤雅之さんは陸上男子400メートルで4位入賞、佐藤雄成さんは自由形リレーで2位、個人の自由形と背泳ぎで各3位と、それぞれ大健闘した。

2人は大会を振り返り、「外国人選手と競うことができ楽しかった」「もっと練習して今度は金メダルを取りたい」などと話していた。

飲食料品の2%分を還付 消費税10%時、自公が了承 池尻和生、横枕嘉泰

朝日新聞 2015年9月8日



「還付型」のイメージ

自民、公明両党は7日、2017年4月に消費税率を8%から10%に引き上げるのに合わせ、酒を除く飲食料品の2%分を購入後に消費者に戻す「還付制度」の導入について、大筋で了承した。購入時点で税率が低くなっている欧州などでの「軽減税率」とは異なる仕組みで、今後、両党は詳細な制度設計に入る。

制度案は財務省がまとめた。与党側の説明によると、例えば、1千円の飲食料品の買い物をすると消費税10%分を加えて1100円を支払うが、そのうち増税分の2%に当たる20円が後で戻ってくる仕組みだ。来年1月から始まるマイナンバー（社会保障・税番号）のカードを店の機械に通すことなどで戻る金額が記録され続け、一定時期にまとめて、登録した金融機関に振り込まれる構想だ。購入時にレシートなどでいくら還付されるかわかるようにするという。

戻す額の合計に上限を設けることで、より多く買った人には事実上の所得制限がかかる方向で検討。税収減を抑える効果もめざす。

一方、マイナンバーのカードを使う制度については、個人情報流出の恐れや、カードを読み込む機器の準備などに時間や経費がかかることを懸念する声もある。また、そもそもカードの普及が増税時期に間に合わない可能性もある。

児童福祉司を国家資格に＝虐待防止で強化案－社保審専門委

時事通信 2015年9月7日

社会保障審議会（厚生労働相の諮問機関）の専門委員会は7日、児童虐待防止策の強化案を発表した。大学で児童心理を学ぶなどすれば就ける児童福祉司について、試験を課す国家資格にして専門性を向上させることなどが柱。厚労省はこれを受け、来年の通常国会に児童福祉法や児童虐待防止法の改正案を提出する方針だ。

児童福祉司は、主に児童相談所で子どもや親の相談に乗り、問題解決を手助けする公務員。現在は心理学や教育学を学んだ後、児相で業務に1年以上従事するなどすれば、任用資格を得ることができる。

強化案では、児童虐待への対応を強化するため、国家試験で合格することを要求。このほか、児童虐待の通報を一元的に受け付けて緊急性を判断し、警察、児相、市町村などに対応を振り分ける「トリアージセンター」の設置も明記した。

また、虐待を受けている子どもを保護するために児相職員が強制的に家庭に立ち入る「臨検・捜索」について、強制権限のない立ち入り調査といった事前手続きを一部省略するよう検討を促した。

健康な人の血液からiPS細胞 京大と日立が作製へ

朝日新聞 2015年9月8日

京都大iPS細胞研究所（CiRA）と日立製作所は7日、健康診断を受けた健康な人から提供してもらった血液を元に、iPS細胞を作る取り組みを始めると発表した。作った細胞は匿名化した健診のデータと一緒に理化学研究所の細胞バンクに寄託し、医学研究に役立ててもらおう。

今月中旬にも日立が運営する日立健康管理センタ（茨城県日立市）で募集を始め、様々な年齢から100人程度の提供を目指す。iPS細胞はCiRAが作製し、費用も負担する。

iPS細胞は無限に増やすことができ、体の様々な組織の細胞に変わる能力がある。CiRAでは、難病患者の細胞から作ったiPS細胞を細胞バンクに寄託し、病因や創薬の研究に使ってもらおう環境整備を進めている。今後、健康な人のiPS細胞とその人の健康状態や病歴といった情報が加われば、患者の細胞などと比較が可能になる。（阿部彰芳）

独特の感性やオーラを感じて 障害者のアート作品展、浦和区で開催

埼玉新聞 2015年9月8日

県立近代美術館推薦の本田雅啓さんの作品「男性一世」（2014年、博多阪急蔵・JOY倶楽部アート部門アトリエブラヴォ提供）

障害を持つアーティストの作品を集めた企画展「すごいぞ、これは！」（県立近代美術館など主催）が19日から、さいたま市浦和区の県立近代美術館で開催される。見る人が思わずそう叫びたくなるような、個性豊かな作品約300点が全国から集結する。

同館などが昨年度、文化庁の委託事業で実施した「障害者の優れたアート作品」に関する調査を基に、全国の美術館学芸員や専門家が推薦する12人の作品を展示する。

埼玉県からは、杉浦篤さん（同館、前山裕司氏推薦）の作品約40点が出品される。同館によると、杉浦さんの作品は、現像した写真がまるで古写真のように見え、見る人に愛着が伝わるのが特徴。

杉浦さんが両親や風景などの写真を常に持ち歩いたことで写真に程よい傷が付き、作品が出来上がった。意図的ではないにもかかわらず作品を生み出す「行動そのもの」がア



トだとして高く評価された。ほかに、同館が推薦する本田雅啓さん（福岡県）の黄色をモチーフとしたリズムカルなドット柄のマネキンや、西脇直毅さん（大阪府）のびっしり猫を描き込んだ絵も見ることができる。

企画展は11月3日まで、午前10時～午後5時半。一般500円、大学・高校生400円、中学生以下と障害者手帳を持っている人は無料。同館は「作家独特の視点や感性、繰り返し描かれるモチーフへの強いこだわりなど、作品が放つオーラを感じてほしい」と来場を呼び掛けている。問い合わせは、県立近代美術館（048・824・0111）へ。

方言使った支援を検証 高齢被災者調査に助成 大阪日日新聞 2015年9月8日

明治安田こころの健康財団は、2015年度の研究助成の対象者を決め、大阪からは櫛引祐希子・追手門学院大講師による東日本大震災の高齢被災者へのインタビュー調査が選ばれた。被災地では、孤立しがちな高齢者たちに方言を用いた支援活動が展開されており、その手法が支援される側の心の支えになり得ることを検証していく。

同財団は、社会福祉への貢献のため、子どもの健全育成や高齢者の福祉問題などを対象に研究を募集。134件の応募の中から23件を決定した。

8月31日には中央区備後町1丁目の明治安田生命保険大阪本部で、関西地区の助成対象者への贈呈式があり、櫛引講師は「方言を使った支援や働きかけが、心の支えや生きる気力などに結びついていることを、被災者とともに考えていきたい」と意欲を示した。

また、本年度は財団設立50周年を記念した選考枠があり、関西地区からは、社会福祉法人芳友・にこにこハウス医療福祉センター（兵庫県）による「自走式電動乗り物が重症心身障害児の認知機能と体の発達に及ぼす効果」をテーマにした研究が選ばれた。

贈呈式では、明治安田生命の菊川隆志・大阪本部長が「優れた内容のものばかり。自信をもって研究に取り組んでほしい」と期待を寄せていた。

9月8日付・災害備蓄用パン 四国新聞 2015年9月8日

大地震や風水害などの災害に備え、非常食の準備は欠かせない。数多くの商品がある中で、あすなるパン（北海道厚沢部町、江差町）製造の災害備蓄用「缶パン」が安定した人気を誇る。2014年度は約400万缶を出荷。売り上げは約8億円に達する。あすなるパンは民間企業ではない。社会福祉法人江差福祉会（樋口英俊理事長）が運営する知的障害者授産施設。18歳以上の障害者と職員計約50人が働く。パンは5年間保存できるのが特徴。缶の中にカップケーキ型の柔らかいパンが二つ入っている。殺菌性にも優れ、製法は特許を取得している。

製造のきっかけは1993年の北海道南西沖地震。「長期間保存できる食品を作れないか」。樋口理事長と職員らが検討。試行錯誤の結果、2003年に災害備蓄用缶パンの開発にこぎ着けた。ことし10月には水でかき混ぜるだけで食べることができる災害備蓄用もち缶を販売する予定。担当者は「常に新しいものを考えていかないと、生き残れない」。民間企業に負けない商品を作りたいという意気込みが伝わる。業績は順調、施設で働く障害者の工賃（給料）は全国の授産施設の中でもトップクラスという。ちなみに「あすなる」はヒノキ科の常緑木。日本では未来に希望を持つ若者に例えて用いることがある。施設の働き手は障害のある30代が多い。社会貢献し、将来性も期待できる職場。あすなるパンの取り組みは、創意工夫と意欲で、それが可能なことを示している。

(K)

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

